



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

レバノン：ヒズブッラー、シリア内戦への関与

5月19日、シリア政府軍は、同国西部（レバノン東部国境に近い）クサイルへの攻撃を激化した。シリア軍は、レバノンからシリア北部への補給路として機能する同町の奪回を図ろうとしているといわれる。シリア反体制派は、同地域の戦闘にヒズブッラーの戦闘員が参加していると非難した。

5月29日、仏国のファビウス外相は、国民議会の証言で、アサド政権の支援のために介入しているレバノンのヒズブッラーの戦闘員は最大4000人に上るとする仏政府の見解を明らかにした。同外相は、クサイルの戦闘には1700人が加わっているとした。30日、自由シリア軍幹部は、戦闘に参加しているヒズブッラー戦闘員は7000人だと主張した。レバノンのスレイマーン大統領は、29日、声明を出し、ヒズブッラーに、レバノンの治安維持のためにシリアから撤退するよう求め、ヒズブッラー本来の戦い（対イスラエル闘争）に戻るよう要請した。

バハレーンのハリーファ外相は、5月26日、ナスルッラー書記長を「テロリスト」と非難した。同国の副外相は、6月2日、ヒズブッラーがシリアでの戦闘を継続する場合、GCC内のヒズブッラーの権益に対する行動を取るとした。またカタール在住の宗教指導者シェイフ・ユーセフ・カルダウィは、イスラーム教徒に、クサイルでの戦闘を支援するよう求めるファトワを発出した。また同師は、ヒズブッラーとイランをイスラームの敵だと非難した。

米国のオバマ大統領は、ヒズブッラーのシリア内戦関与について、5月20日、スレイマーン大統領と電話で協議している。ケリー国務長官は、22日、ヒズブッラーがシリア内で戦闘に参加した場合、シリアの反体制派が、レバノン内でヒズブッラーを攻撃することへの懸念を表明した。

6月1日、シリア側からレバノンのベッカー地域にロケット弾や迫撃砲18発が射ち込まれた。同地域では、1日から2日にかけて、ヒズブッラーとシリア反体制派が戦闘を行ったと報道されている。6月3日の米NYT紙は、シリア反体制派の話として、シリア北部アレッポの近郊にヒズブッラー戦闘員約2000人が集結していると報道している。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799